

「アジア／アフリカ／グローバル臨地演習I・II・III」の単位付与方法について

令和5年7月
学務委員会

標題の件について、令和6年度より下記のとおり取り扱います。

- 1) 「アジア／アフリカ／グローバル臨地演習I」（以下、「臨地演習I」とする。II・IIIも同様）は、1年次に臨地教育を受けた者、「臨地演習II」は2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者、「臨地演習III」は2年次以降で博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）を単位付与の対象とする。ただし、博士予備論文の提出後に、そのセメスター内に臨地教育を受けた者は「臨地演習II」の単位を付与する。
- 2) 学生がフィールドで指導教員から実際に指導を受けること、あるいは、指導教員が同行しない場合には、学生が指導教員に対してフィールド調査の進捗状況について報告することを単位の必要要件とする。
- 3) 臨地教育を受けるフィールドについては海外、あるいは、日本国内を問わない。海外調査の場合については渡航期間を4週間以上とする。日本国内の調査については主指導教員が認めれば「臨地演習I」・「臨地演習II」・「臨地演習III」の単位を付与することができる。
- 4) 単位の認定については、学生が臨地研究報告書を提出することによっておこなう。
- 5) 学生は「臨地研究報告書」の科目名のチェック・ボックスにチェックを入れて、単位申請をおこなう。
- 6) 単位申請が行われた場合には、当該の学生について、教務掛から送付された採点表に主指導教員が素点（100点満点）で成績評価をおこない、単位付与の可否を決める。
- 7) 1回のフィールドワークにおいて4週間以上現地に滞在し、さらに40日以上にわたり滞在した場合には、「臨地演習I またはII」と「臨地語学演習I またはII」の単位を同時に取得することを可能とする（この場合、臨地研究報告書の提出時に2つの科目名のチェック・ボックスにチェックを入れる）。

『「臨地語学演習IおよびII」の単位付与方法について』を参照。